

令和7年度
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の
点検・評価報告書

令和8年9月

福 井 県 教 育 委 員 会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	令和7年度福井県教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	11
4	教育委員会関係の許認可の状況	11
5	令和8年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況（令和7年度実施）	13
6	令和8年度公立学校教員採用選考試験の実施状況（令和7年度実施）	15
V	令和7年度の教育関係施策の取組実績	
1	教育振興基本計画（令和7年3月策定）に基づく施策の実施結果および 達成目標の進捗状況	19
2	主要事業の実施成果	25
VI	有識者からの意見	39

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）に基づき、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

〔 参 考 〕

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「令和7年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

Ⅱ 点検・評価について

1 対象期間

令和7年度（令和7年4月～令和8年3月）

2 点検・評価方法

（1）点検・評価報告書の作成

教育委員会において点検・評価報告書案を作成

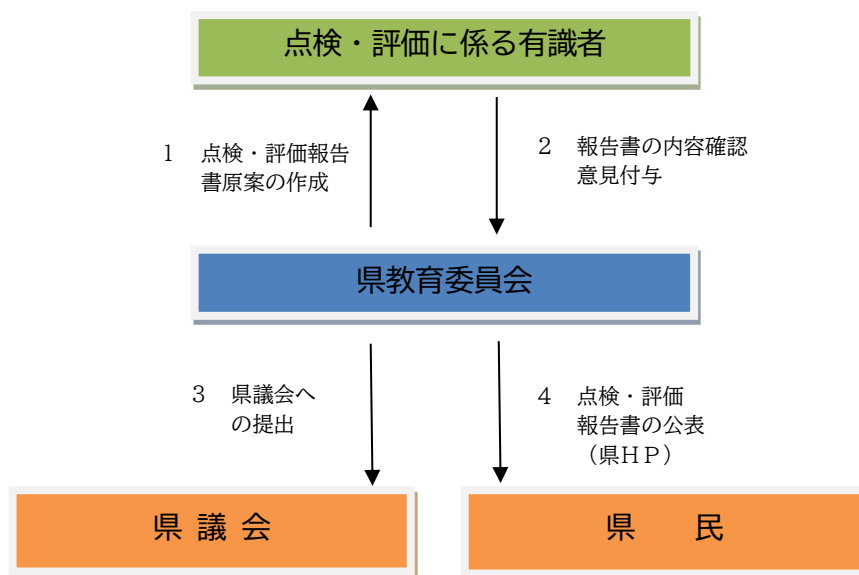
（2）点検・評価報告書の確認、意見付与

有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および意見付与

（3）点検・評価結果の公表

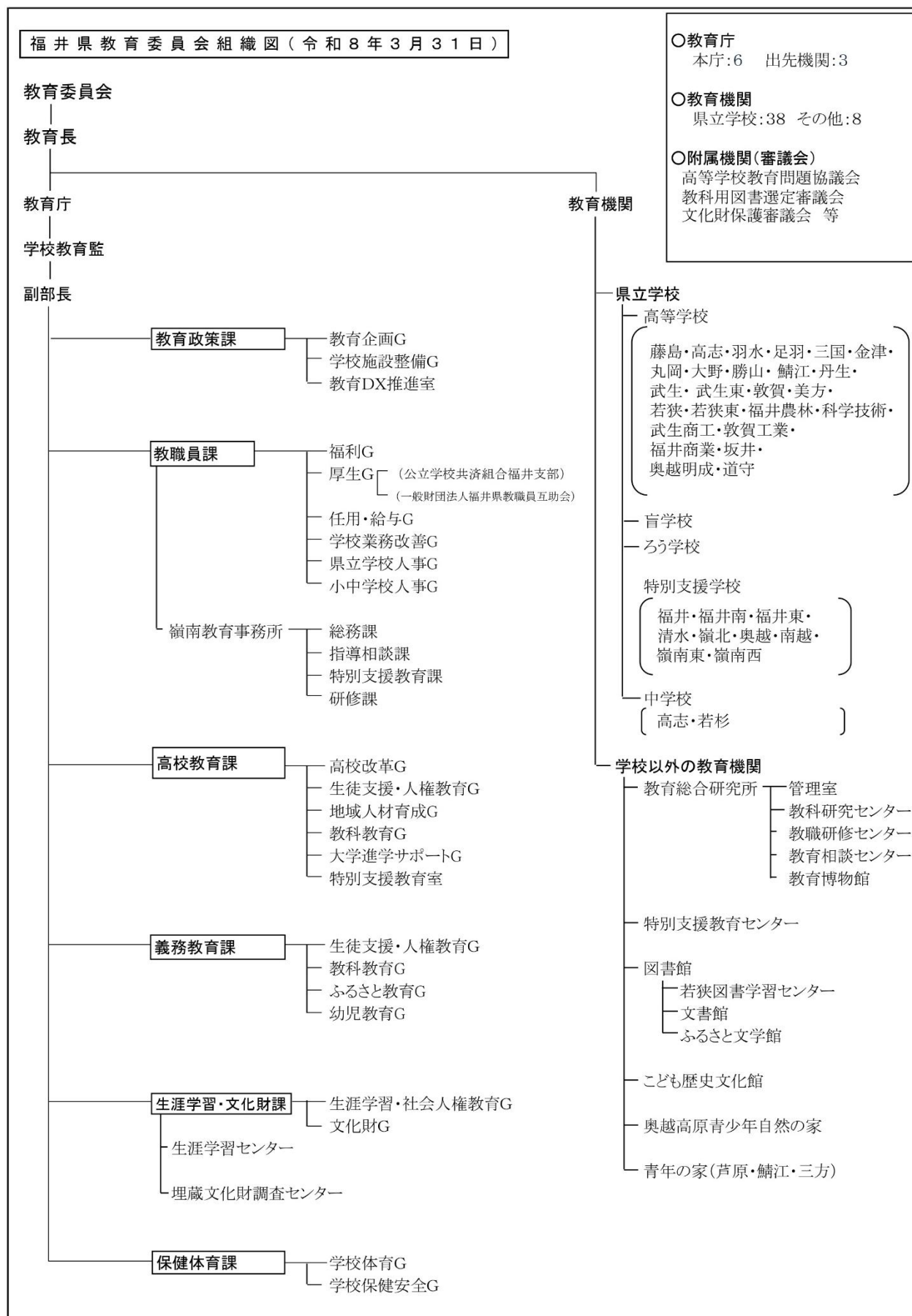
点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表

〔点検・評価フロー〕



Ⅲ 組織および決算

1 組織



2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育政策課	6,662,087	2,774,143	2,774,143	0	41.6	100.0
教職員課	15,563,898	15,543,170	15,543,074	96	99.9	99.9
高校教育課	179,325	144,525	124,772	19,753	69.6	86.3
義務教育課	71,640	66,618	66,618	0	93.0	100.0
生涯学習・文化財課	125,692	126,854	126,854	0	100.9	100.0
保健体育課	108,708	99,163	99,163	0	91.2	100.0
計	22,711,350	18,754,473	18,734,624	19,849	82.5	99.9

(2) 歳出

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育政策課	16,304,193	12,045,240	3,745,333	513,620	73.9
教職員課	70,496,946	69,370,090	346	1,126,510	98.4
高校教育課	416,369	305,796	57,349	53,224	73.4
義務教育課	291,876	274,710	0	17,166	94.1
生涯学習・文化財課	1,246,314	1,086,385	117,127	42,802	87.2
保健体育課	250,039	217,038	0	33,001	86.8
計	89,005,737	83,299,259	3,920,155	1,786,323	93.6

Ⅳ 令和7年度福井県教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 福井県教育委員会委員

(令和7年4月1日～令和7年10月10日)

	氏 名	職 業
教育長	藤 丸 伸 和	
委員（教育長職務代理者）	原 公 樹	僧侶
委員	山 本 直 子	法人役員
委員	森 下 典 子	元教員
委員	横 井 康 孝	会社役員
委員	小 泉 綾 子	会社役員

(令和7年10月11日～令和8年3月31日)

	氏 名	職 業
教育長	藤 丸 伸 和	
委員（教育長職務代理者）	山 本 直 子	法人役員
委員	森 下 典 子	元教員
委員	横 井 康 孝	会社役員
委員	小 泉 綾 子	会社役員
委員	梅 田 景 子	弁護士

(2) 教育委員会会議の開催状況

- ・開催回数 18回
- ・附議事項 62件

○第1192回（令和7年4月23日（水））

- ・福井県指定文化財の指定について
- ・教育職員免許に関する規則の一部改正について
- ・福井県教科用図書選定審議会委員の任命について
- ・福井県心身障がい児就学指導委員会委員の委嘱について

○第1193回（令和7年5月7日（水））

- ・福井県いじめ調査専門委員会規則の策定について
- ・福井県立学校設置条例等の一部改正について

○第1194回（令和7年5月22日（水））

- ・教職員の懲戒処分について
- ・教職員の懲戒処分について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1195回（令和7年6月13日（金））

- ・令和7年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
- ・令和8年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について

○第1196回（令和7年7月9日（水））

- ・令和8年度福井県立高等学校入学者選抜における推薦入学者選抜の実施校について
- ・令和8年度福井県立高等学校入学者選抜における特色選抜の実施校および実施種目・領域について
- ・令和8年度福井県立高志中学校入学者選抜に関する実施要項の制定について
- ・福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・福井県立若杉中学校（夜間中学）入学者募集案内について
- ・福井県いじめ調査専門委員会規則の修正について

○第1197回（令和7年7月31日（木））

- ・福井県立歴史博物館運営協議会委員の任命について

○第1198回（令和7年8月25日（月））

- ・令和8年度使用県立高等学校、県立特別支援学校高等部および県立中学校の教科用図書の採択について
- ・令和6年度福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について
- ・令和7年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について

○第1199回（令和7年9月26日（金））

- ・令和8年度福井県公立学校教員採用選考試験採用内定者の決定について
- ・福井県教育委員会行政組織の規則の一部改正について
- ・県立若杉中学校（夜間中学）校章決定について
- ・令和7年10月1日付人事異動について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1200回（令和7年10月8日（水））

- ・令和8年度福井県立学校入学者募集定員について
- ・令和8年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項ならびに令和8年度福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について
- ・福井県立学校の管理運営規則に関する規則の一部改正について
- ・令和8年度技能労務職（船舶技術員）採用選考試験採用内定者の決定について

○第1201回（令和7年10月22日（水））

- ・教職員の懲戒処分について

○第1202回（令和7年11月19日（水））

- ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
- ・福井県義務教育諸学校等の教育職員の給与等の特別措置に関する条例の一部改正について
- ・福井県一般職の職員等の給与に関する条例および福井県一般職の職員等の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について
- ・令和8年度教職員人事異動方針について
- ・令和8年度福井県公立学校校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1203回（令和7年12月24日（水））

- ・令和8年度福井県立学校寄宿舎指導員・実習助手採用選考試験の採用内定者の決定について
- ・令和8年度福井県公立学校再任用教職員採用内定者の決定について
- ・福井県朝倉氏遺跡研究協議会委員の委嘱について

○第1204回（令和8年1月16日（金））

- ・令和7年度ふくい優秀教職員表彰の被表彰者の決定について
- ・令和7年度福井県学校保健・学校安全・学校給食被表彰者の決定について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1205回（令和8年2月6日（金））

- ・福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- ・市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- ・福井県立学校設置条例の一部改正について
- ・福井県教育振興基金条例の制定について
- ・いじめ調査委員会委員の委嘱について
- ・福井県立美術館運営協議会委員の任命について

○第1206回（令和8年3月2日（月））

- ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について

○第1207回（令和7年3月5日（木））

- ・福井県立図書館規則の一部改正について
- ・福井県文化財保護審査会の委員の任命について
- ・令和8年度公立小中学校長・教頭および県立学校長・教頭の人事異動について

○第1208回（令和8年3月16日（月））

- ・令和8年4月1日付け組織改正に伴う福井県教育委員会行政組織規則の一部改正について
- ・令和8年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職の人事異動について
- ・教職員の懲戒処分について
- ・教職員の懲戒処分について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1209回（令和8年3月31日（火））

- ・福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・次世代育成対策推進および女性職員の活躍の推進に係わる特定授業主行動計画について
- ・授業名人の任命について
- ・福井県鉄砲刀剣類登録審査委員の任命について

2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容（参加行事等）
令和7年 4月23日	授業名人任命式、第1192回教育委員会
5月 7日	第1193回教育委員会
5月22日	第1194回教育委員会
5月28日	福井県市町教育委員会連絡協議会総会
6月10日	学校訪問（福井商業高校）
6月13日	第1195回教育委員会、学校訪問（鯖江市東陽中学校）
6月16日	教育施設訪問（教育総合研究所）
7月 4日	学校訪問（坂井市立春江小学校）
7月 9日	第1196回教育委員会、学校訪問（南越特別支援学校）
7月14日	学校訪問（敦賀市立気比中学校）
7月15日、16日	全国都道府県教育委員会連合会第1回総会等
7月29日	教育施設訪問（福井県立図書館）
7月31日	第1197回教育委員会
8月 4日、5日、6日、 7日	教員採用試験
8月25日	第1198回教育委員会
9月26日	第1199回教育委員会
10月 7日	童謡で伝える会
10月 8日	第1200回教育委員会
10月20日、21日、 22日、23日	管理職任用選考試験
10月22日	第1201回教育委員会
10月24日	辞令交付式
10月28日	教育功労者表彰式
11月 5日	学校訪問（三国高校）
11月 8日	福井県立足羽高等学校創立50周年記念式典
11月11日	学校訪問（若狭高校）
11月13日	総合教育会議
11月14日	学校訪問（勝山高校）
11月18日	学校訪問（越前市武生東小学校）
11月19日	第1202回教育委員会、学校訪問（福井市清明小学校）
11月20日、21日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会
11月25日	学校訪問（勝山市立勝山中部中学校）
11月27日	教育現場視察（若狭図書館学習センター）

12月24日	第1203回教育委員会
令和8年 1月15日	都道府県指定都市教育委員研究協議会
1月16日	第1204回教育委員会
1月26日	全国都道府県教育委員会連合会第2回総会等
2月 6日	第1205回教育委員会、令和7年度ふくい優秀教職員表彰式、 福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰式
2月 7日	ふるさとの学びフェア
3月 2日	第1206回教育委員会
3月 5日	第1207回教育委員会
3月16日	第1208回教育委員会
3月17日	勝山高校「ひびき寮」開寮式
3月31日	第1209回教育委員会、永年勤続退職教職員辞令交付式・表彰式

3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障がい児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	7. 6.12 7. 10.03 7. 12.11
福井県教科用図書選定審議会	16	2	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	7. 5.1 7. 6.9
福井県文化財保護審議会	16	3	令和7年度の福井県指定文化財に係る調査計画について 福井県指定文化財の指定について（諮問） 福井県指定文化財の指定について（答申）	審議・答申・協議・報告	7. 5.30 8. 1.20 8. 3.24

4 教育委員会関係の許認可の状況

（1）教育職員免許状の授与等（令和7年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	37	135	5	0	30	207
中学校	54	126	6	0	11	197
高等学校	61	200	0	4	43	308
特別支援学校	3	22	44	0	12	81
幼稚園	2	59	57	0	7	125
養護教員	0	27	6	0	1	34
栄養教員	0	2	1	0	0	3
自立教科等	0	0	0	0	0	0
合 計	157	571	119	4	104	955

(2) 文化財の指定状況

令和7年度においては、新たに県指定文化財が4件指定されました。

<指定文化財の現状>

令和8年3月31日現在

区 分		国指定		国選定	国選択	国登録	県指定	備 考
		国 宝 特 別	重 文 国指定					
有 形 文化財	建造物	2	29			266	30	
	絵 画		14				87	
	彫 刻		36				85	
	工芸品	3	9			1	36	
	書跡・典籍・古文書	1	16				23	
	考古資料		5				17	
	歴史資料		3				9	
	計	6	112			267	287	
無 形 文化財	芸 能							
	工芸技術		2				4	
	計		2				4	
民 俗 文化財	有形民俗文化財		1			1	11	
	無形民俗文化財		5		12	1	65	
	計		6		12	2	76	
史跡・名勝・ 天然記念物	史 跡	1	24				29	
	名 勝	1	14			2	7	
	天然記念物	4	17			1	32	
	名勝天然記念物		1					
	計	6	56			3	68	
文化的景観				3				
重要伝統的建造物群保存地区				3				
選定保存技術				1				
合 計		12	176					
		188		7	12	272	435	

(3) 銃砲刀剣類の登録状況（令和7年度）

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等を次のとおり行いました。

登録証交付 58 件
登録証再交付 13 件
所有者変更 255 件

(4) 教育委員会所管の公益法人（令和8年3月31日現在）

20法人（公益財団法人11 一般財団法人8 一般社団法人1）

5 令和8年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況（令和7年度実施）

(1) 県立高等学校

課程別の合格者数は、表1のとおりです。また、全日制の第1次学力検査合格者のうち、帰国子女等受験者と追検査受験者を除く教科別の平均点は、表2のとおりです。

表1 課程別の合格者数

※（ ）内は前年度実績

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦入学者選抜	568(555)		568(555)
特 色 選 抜	451(479)		451(479)
外国人生徒等 特 別 選 抜	22(15)		22(15)
連携型中高一貫 教育校入学者選抜	73(84)		73(84)
一般入学者選抜	3,108(3,176)	149(155)	3,257(3,331)
第2次募集	48(40)	14(22)	62(62)
計	4,270(4,349)	163(177)	4,433(4,526)
募集定員	4,430(4,531)	350(350)	4,780(4,881)
充足率	96.4%(96.0%)	46.6%(50.6%)	92.7%(92.7%)

表2 教科別の平均点

	選択問題A	選択問題B
英 語	35.6(34.3)	62.9(57.8)
数 学	40.0(44.1)	63.4(63.6)
	共通	
国 語	57.3(61.5)	
社 会	51.1(56.5)	
理 科	50.6(53.4)	
総 点	177.9(189.4)	308.0(317.3)

※英語および数学は大問4～6のうち1～2問を次の2種類の選択問題として実施

A：基礎力を問う問題 【選択した合格者 873人】

B：記述・論述の割合が多い問題 【選択した合格者2,190人】

(2) 県立中学校

平成27年度に開学した高志中学校の入学者選抜の受験の状況は、表3のとおりです。また、適性検査等の結果は表4のとおりです。

表3 受験の状況

募集定員	出願者数	受験者数	合格者数
90	221	217	90

表4 適性検査等の結果

	配点	平均点
適性検査Ⅰ	100	59.4
適性検査Ⅱ	100	38.2
適性検査Ⅲ	100	49.4
面接	50	46.3
合計	350	193.3

また、令和7年10月に、様々な事情で義務教育を受けられなかった方の学びの場として、県内初の夜間中学「若杉中学校」を道守高校内に設置しました。

※新入生15人（うち、外国籍4人）、年齢層10代～80代

6 令和8年度公立学校教員採用選考試験の実施状況（令和7年度実施）

第1次選考

試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和7年6月28日（土） 一般・教職、教科等専門（小学校、中学技術、高校各科、養護教諭、栄養教諭）	福井県立高志高等学校 （福井市御幸2丁目25-8） （公益財団法人）都道府県センター （東京都千代田区平河町2-6-3） 福井市旭小学校【中高音楽実技】 （福井市手寄2丁目2-5）
令和7年6月29日（日） 教科等専門（中高一括、特別支援学校）	

第2次選考 および 特別選考

試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和7年8月1日（金） 【第2次選考】適性検査、小論文 （※適性検査はオンライン実施） 【特別選考】 令和8年度大学院特別選考 適性検査、個人面接 教育エキスパート特別選考 個人面接等	福井県立高志高等学校 （福井市御幸2丁目25-8）
令和7年8月1日（金） 8月4日（月）～8日（金） 【第2次選考】個人面接	

《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保および選考過程の透明性・公平性を図るため、次のような改善を行いました。

○ 優秀な人材の確保

<平成18年度から実施>

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

<平成19年度から実施>

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

<平成20年度から実施>

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

<平成21年度から実施>

- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

<平成23年度から実施>

- ・スポーツ特別選考の実施

<平成25年度から実施>

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

<平成27年度から実施>

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
③グローバル教育特別選考

<平成28年度から実施>

- ・特別選考の見直し①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
専門教育分野
英語教育分野

<令和元年度から実施>

- ・障がい者特別選考の受験資格拡大
- ・介護を理由に退職した教員の再採用を実施

<令和2年度から実施>

- ・第1次選考全部免除制度を導入
（他都道府県国公立学校正規勤務経験者または県内国公立学校勤務講師対象）
- ・第1次選考の一般教養と教職専門の筆記試験を一般・教職に一本化
- ・第2次選考の「集団討論」を廃し「個人面接」を2回に変更

<令和3年度から実施>

- ・スポーツ・芸術特別選考を教育エキスパート特別選考に移行

<令和4年度から実施>

- ・加点制度の拡充
（①複数教員免許状所持による加点、②司書教諭資格者による加点）

<令和5年度から実施>

- ・第1次選考全部免除制度の拡充
（県内講師等経験者（60月以上経験者）対象）
- ・大学3年時第1次選考の導入
- ・「東京会場」の設置（※第1次選考）

<令和6年度から実施>

- ・加点制度の対象となる資格に情報関連資格を追加
（Microsoft Office Specialist(MOS)、ITパスポート、基本情報技術者試験）

- ・大学院修士課程修了時特別選考の受験資格の拡充
受験する職種・校種・教科等の教員免許状を年度末までに取得できない場合においても受験できるように受験資格を拡充

- ・チャレンジ第1次選考の導入

「大学3年時第1次選考」の受験対象の拡充に伴い、名称を変更

<令和7年度から実施>

- ・「嶺南採用枠」の創設

嶺南地域の教育振興のため、一般選考において「嶺南採用枠」を創設(詳細は下表)

【採用方法等】

採用校種・教科	一括採用(小学校および中学校の各教科)
勤務条件	原則、採用から10年以上、嶺南地域で勤務
採用数	10名程度
選考方法	第1次選考 : 筆記試験(一般・教職、教科等専門) 第2次選考 : 一般選考(小論文、面接)に加え、嶺南地域の教育に関する内容を問う面接を別途実施
受験資格・免除等	・受験資格は小学校免許(必須)および中学校の各教科の免許所有者 ・志願者の出身地・出身大学は不問 (取得予定者) ・一般選考との併願可(※ただし、嶺南採用枠での出願を第1希望とする) ・福井大学嶺南地域教育プログラム修得者(予定者)は、一般選考の第1次選考の一般・教職を免除(一部免除) ※チャレンジ第1次選考の受験者も同様

※配置について: 希望する中学校の各教科で配置できない場合、初任校は小学校に配置。次の配属先について、異校種を含めて考慮

○ 受験者に対する情報の提供

<平成20年度から実施>

- ・2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表(自己採点可能)の実施
- ・個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示
1次選考および2次選考における筆記試験、実技試験、作文および面接の点数
- ・筆記試験、実技試験、作文および面接の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・1次選考合格者および最終合格者について、合否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表

<平成21年度から実施>

- ・判定基準をホームページで事前発表
- ・解答例および設問別配点をホームページに掲載(自己採点可能)
- ・不合格者のうち希望者に、筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

<平成26年度から実施>

- ・不合格者全員に筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

○ 選考過程等の改善

<平成20年度から実施>

- ・改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検を実施
- ・民間有識者による選考手順や選考内容の点検および抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合を実施

<平成21年度から実施>

- ・実技試験において、受験番号にかわり整理番号を使用

<平成24年度から実施>

- ・電子申請による受付を導入

<平成26年度から実施>

- ・一般教養試験において、マークシート方式を導入

<平成27年度から実施>

- ・小学校筆記試験において、外国語のリスニングテストを導入
- ・一般教養に加え、教職専門の試験において、マークシート方式を導入

<令和2年度から実施>

- ・小学校の試験において、外国語リスニングおよび実技試験を廃止
- ・外国語資格における加点対象を拡大

<令和5年度から実施>

- ・出願手続きを電子申請に一本化

<令和6年度から実施>

- ・出願手続きに必要な各種書類を電子化し、紙媒体での提出から電子データによる提出に変更（出願書類のペーパーレス化）
- ・第1次選考の筆記試験の適正化（内容の精選、問題数、難易度、時間等の見直し）

V 令和7年度の教育関係施策の取組実績

1 教育振興基本計画（令和7年3月策定）に基づく施策の実施結果および達成目標の進捗状況

方針1：自らと福井の将来につなげる学びの推進

（1）確かな学力と探究力の育成

- ・子どもたちの学びの基礎となる公平な学習機会の確保のため、県立学校のタブレット端末を公費で更新（R7～R9）するとともに、モデル校にAI等の先進技術を用いた学習用アプリを導入。今後のデジタル教科書導入を見据え、教員研修やデジタル教科書を用いた授業を試験的に実施するなど、教育DXを推進〔教育政策課〕
- ・課題研究等の合同発表会「高校生探究フォーラム」を3回開催（生徒450人が参加）し、県立高校における探究的な学びを支援。また、高校生がデザイン思考など企画力や構想力の基礎となる手法を学ぶワークショップを初開催（生徒38人が参加）するなど、クリエイティブ教育を推進〔高校教育課〕
- ・「福井をもっとおもしろく！」をテーマに、福井の魅力向上や地域課題解決に向けた取り組みを表彰する「高校生チャレンジアワード」を創設（県立学校17校から107チーム、322人が応募）し、地域への愛着と誇りを育成〔高校教育課〕
- ・児童生徒の理系分野への興味・関心を高めるため、ふくい理数グランプリ（参加生徒数 小学465人、中学390人、高校531人）や中学生向けのキャリア教育を企業と連携して実施。また、女子高校生対象の「ふくいGirl's 未来のテックリーダー」ゼミ講座（参加生徒数53人）を開催し、サイエンス教育を推進〔高校教育課、義務教育課〕

（2）豊かな心と健やかな体の育成

- ・子どもたちがお互いを尊重し、自己肯定感を育むポジティブ教育を推進。福井県版ポジティブ教育プログラムを策定し、教職員を対象としたポジティブ教育ワークショップを9回実施（延べ745人が参加）するなど、ポジティブ教育の導入・定着を支援〔義務教育課〕
- ・県立青少年教育施設において、自然・宿泊体験による県内外の子どもたちの交流事業を実施し、県外31人を含む135人が参加したほか、県内8つの民間団体と連携した自然体験プログラムを実施（135人が参加）するなど、アウトドア教育を推進〔生涯学習・文化財課〕
- ・地場産食材を使用した副食を一品追加する「地場産プラスワン給食」（各市町において計79回実施）を支援し、地場産食材を教材とした、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等を学ぶ食育を推進〔保健体育課〕

(3) 多様な人々と協働する力の育成

- ・小中学生を対象とした、「明日をひらく！プレゼンコンテスト」を開催し、15チーム77人が参加するなど、自らの考えや念いを伝えるプレゼンテーション教育を推進。
また、「全国高校生プレゼン甲子園」を開催（36都道府県から777チームが参加）し、高校生の論理的思考力、創造力の育成や総合的なプレゼンテーション能力を育成
〔義務教育課、高校教育課〕
- ・英語や国際交流に興味関心をもつ高校生を対象とした、学校横断型の「ふくいグローバルサークル（FGC）」を創設し、県立高校12校から137人が参加。留学生や海外ビジネスを展開する企業との交流等により、グローバル人材の育成を推進
〔高校教育課〕

(4) ふるさとの未来と自らの将来を思い描く力の育成

- ・ふくいの未来と地域政策を考える「地域デザイン講座」を県立高校19校で開催し、929人が受講したほか、県立高校20校で地元OBとの交流等の地域と連携した学習を実施し、高校生が自らの生き方を考えるライフデザイン教育を推進
〔高校教育課〕
- ・地域の普通科高校に在学し、県内大学への進学を目指す生徒の学習を支援するため、福井県大学進学サポートセンター内に「県内大学進学コース」（登録者数137人）を設置し、各大学の入学試験を想定した対策講座を実施
〔高校教育課〕
- ・地域に関わる体験・探究活動を通じて気付いたふるさとの良さを発信する「ふるさと福井CMコンテスト」を開催（小学校89作品、中学校31作品、特別支援学校120作品の応募）。また、各学校で実施するふるさと教育実践の表彰および活動成果を発表する「ふるさとの学びフェア」を開催（約500人が参加）するなど、ふるさと教育を推進
〔義務教育課〕

(5) 幼小中高大のトータル教育の推進

- ・「学びをつなぐ希望のバトンカリキュラム『ふくい18年教育』」を令和7年3月に策定し、幼小中高大のトータル教育を推進するとともに、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を強化（研修会を4回実施、保育士や小学校教員など延べ1,937人が参加）
〔義務教育課〕

〔達成目標〕

名称	対象		策定前（R6）	目標	直近（R7）
授業がわかる児童生徒の割合 （全国学力・学習状況調査） （高校生学習状況調査）	小学校	国語	91.9%	90%維持	89.5%
		算数	87.0%	90%	83.0%
	中学校	国語	87.5%	90%	82.6%
		数学	77.7%	85%	73.0%
	高校	国語	87.9%	90%	88.4%
		数学	74.2%	80%	73.3%

名称	対象	策定前（Ｒ６）	目標	直近（Ｒ７）
課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合 （全国学力・学習状況調査）	小学校	86.0%	90%	83.2%
	中学校	84.2%	90%	82.1%
ＰＣやタブレットの使用が勉強の役に立つと思う児童生徒の割合 （生活や学習・学級に関する調査）	小学校	76.6%	80%	75.5%
	中学校	68.4%	70%	70.7%
運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合 （全国体力・運動能力、運動習慣等調査） （高校生運動習慣等調査）	小学校	91.3%	90%維持	91.3%
	中学校	86.2%	90%	87.2%
	高校	83.5%	90%	83.9%
自分の考えを伝えたり、グループで発表したりするのが楽しいと思う児童生徒の割合 （生活や学習・学級に関する調査）	小学校	86.5%	90%	81.9%
	中学校	81.6%	90%	85.1%
自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりして、表現することをよく行っている生徒の割合 （高校生学習状況調査）	高校	72.5%	80%	73.1%
将来の夢や希望（目標）を持っている児童生徒の割合 （全国学力・学習状況調査） （高校生学習状況調査）	小学校	85.3%	90%	86.0%
	中学校	68.9%	80%	70.8%
	高校	74.9%	80%	75.6%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 （全国学力・学習状況調査）	小学校	85.9%	90%	81.8%
	中学校	79.0%	85%	78.6%
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒の割合 （高校生学習状況調査）	高校	66.0%	80%	67.1%
県立高校卒業生の県内進学・就職率 （県調査）	高校卒業生	46.6%	50%	46.8%
将来の県内就職を視野に入れている生徒の割合（県調査）	中学校	67.0%	80%	66.2%
	高校	70.9%	80%	70.2%

方針２：誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進

（１）安心して学べる場の充実

- ・「校内サポートルーム」を５０校から７３校（小学校３９校、中学校３４校）に拡充し、不登校児童生徒を支援するサポートルーム支援員を配置したほか、サポートルームにおける好事例を展開するなど、学校に行きづらい子どもたちが安心して学ぶことができる居場所づくりを促進〔義務教育課〕
- ・外国人児童生徒の支援のため、市町が配置する日本語支援員や多言語翻訳機導入への支援を行ったほか、県立高校にコミュニケーションサポーターを配置するなど、子どもの多様性に応じた学びや教育環境整備を推進〔義務教育課〕
- ・新たな学びの場となる県内初の夜間中学（県立若杉中学校：新入生１５人（うち、外国籍４人）／年齢層１０代～８０代）の開校に向け、カリキュラム作成、校章募集、学校説明会、体験授業、入学説明会、生徒募集等を実施し、開校準備を促進〔義務教育課〕

（２）特別支援教育の推進

- ・通学時に医療的ケアが必要な児童生徒について、令和７年７月から新たに、看護師が同乗する福祉車両で送迎を行うなど、障がいのある児童生徒の保護者負担を軽減し、学びの機会を確保（福祉車両での送迎件数１７７件、利用人数２８人）〔高校教育課〕
- ・障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒と一緒に教育を受ける機会を促進するため、越前町立朝日小学校、福井市清水中学校、清水特別支援学校をモデル校として、交流や共同学習を実施するインクルーシブ教育を推進〔高校教育課〕

（３）医療・福祉分野との連携強化

- ・児童虐待防止や不登校対策等の充実のため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談担当教員が、児童相談所や警察、医療・福祉機関等と連携した研修を実施（３回、延べ３０８人が参加）するなど、組織的な連携を強化〔義務教育課、高校教育課〕

〔達成目標〕

名称	対象	策定前（Ｒ６）	目標	直近（Ｒ７）
学校に行くのは楽しいと思う 児童生徒の割合 （全国学力・学習状況調査）	小学校	８７.５％	９０％	８７.９％
	中学校	８７.４％	９０％	８９.６％
自分にはよいところがあると思う 児童生徒の割合 （生活や学習・学級に関する調査）	小学校	８５.４％	９０％	８７.７％
	中学校	８６.０％	９０％	８７.７％

方針３：人生を楽しく豊かにする学びの推進

（１）生涯学習の振興

- ・県立図書館において電子書籍を導入（Ｒ７．７）し、利便性向上を図るとともに、学びの拠点としての機能を強化（Ｒ７コンテンツ数：９，８６６点）〔生涯学習・文化財課〕

（２）文化芸術・スポーツ活動の充実

- ・持続可能な中学生の文化芸術・スポーツ活動の機会確保と教員の負担軽減を両立するため、県総括コーディネーターの配置や指導者研修会の開催、市町の経費負担に対し支援を行い、部活動の地域展開を推進。令和７年度末までに、県内中学校部活動の８９．７％において、休日の部活動を地域クラブに移行〔保健体育課〕

〔達成目標〕

名称	策定前（Ｒ６）	目標	直近（Ｒ７）
福井ライフ・アカデミー受講者の満足度 （県調査）	97.5%	90%維持	97.3%
県立図書館利用者の満足度 （県調査）	94.9%	90%維持	96.7%

方針４：基本となる環境づくり

（１）「ふくい教育」の魅力発信

- ・新たな挑戦に取り組む教職員を顕彰する「ふくい教育チャレンジアワード」を開催。頑張る教職員の姿が見える化し、教職員の自信と誇りを高め、チャレンジ意欲を促進。応募総数８４件（学びを引き出す部門７０件、働きやすさ向上部門１４件）〔教職員課〕
- ・教職魅力発信ディレクターを配置し、県内大学における対話型の講義を８回開催（約６００人の学生が参加）したほか、中高生を対象に教職の魅力ややりがいを伝えるための「ジュニア先生ワークショップ」を開催（２２人の生徒が参加）するなど「ふくい教育」の魅力発信を強化〔教職員課〕
- ・学校現場の声を集めて業務改善に活かすため、教育実践や研究成果を発表し、教員同士で学び合う「ふくい教育フォーラム」（オンライン参加教員数２３５人）や、県内各地で「GGKみらいカフェ」を開催（参加教員数１４０人）〔教職員課〕

(2) 教職員一人ひとりを大切にする「働き方改革」の推進

- ・男性教職員の積極的な育児休業取得を呼びかけ、男性育休取得率が大幅に上昇（R 5：35.6%、R 6：60.0%、R 7：79.7%）。全国に先駆けて産育代替専門職（正規教員8人）を新たに配置し、男性教職員の育休取得を促進するなど、教職員の働き方改革を推進
〔教職員課〕

- ・福井弁護士会と連携協定を締結し、教職員の負担を軽減するため、学校で対応が困難な事案については弁護士による代理対応（同席含む）を可能とするなど、保護者対応等にかかる法的支援を強化（R 7スクールロイヤー対応件数 22件）。保護者と良好な関係を築くため、「学校と保護者のよりよい関係づくりのためのガイドライン」を福井弁護士会と連携して作成（R 7.12作成、R 8.3福井弁護士会監修のもと改訂）
〔教職員課〕

(3) 特色のある魅力的な学校づくり

- ・体育館空調の整備を6校で着手するなど、施設整備により快適な学校づくりを推進するとともに、最新の電子黒板導入（県立高校26校で173台）やWi-Fi環境の拡大など、デジタル環境の高度化を推進
〔教育政策課〕

〔達成目標〕

名称	策定前（R 6）	目標	直近（R 7）
時間外勤務月 45 時間未満の教員の割合 （県調査）	74.3%	80%	76.8%
仕事に喜びや楽しさを感じている教職員の割合 （県調査）	73.1%	80%	75.6%

2 主要事業の実施成果

※「福井県長期ビジョン実行プラン」の分野別政策ごとに記載

I 個性を伸ばす（人材力） 1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 （１）県立学校リノベーション事業 教育政策課				
〔事業目的〕	県立学校の長寿命化を進め、時代に即した学習環境を備える学校を整備するため、計画的にリノベーション工事等を実施する。			
〔事業内容〕	建築後 35 年以上経過した県立学校施設を対象に、外壁や内装、各種設備など施設全体を改修			
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,589,693		1,432,000	157,693
〔事業の目標 および効果〕	・ 高等学校 4 件、特別支援学校 1 件の大規模改修工事を実施した。 ・ 特別支援学校 1 件の設計を実施した。 ・ 2 校 14 教室の空調設備更新工事を実施した。			
〔事業評価〕	学校施設の大規模改修工事を実施し、屋上防水や外壁改修など長寿命化を進めた。また、断熱性の確保により省エネ化を図る改修など、時代に即した学習環境を整備するとともに、空調設備更新工事を実施した。			

I 個性を伸ばす（人材力） 1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 （２）県立学校体育館空調整備事業 教育政策課				
〔事業目的〕	県立学校の体育館に空調設備を整備し、避難所としての環境改善を図るとともに、猛暑においても生徒が安全で快適に体育館での授業等を受けられる環境確保および県立学校の魅力向上を図る。			
〔事業内容〕	県立学校の（29 校 32 棟）の体育館に空調設備を整備			
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	282,838		267,000	15,838
〔事業の目標 および効果〕	・ 29 校 32 棟の体育館に可動式空調を導入した。 ・ 高等学校 6 件の空調設置工事を実施した。 ・ 高等学校 12 件、特別支援学校 1 件の設計を実施した。			
〔事業評価〕	計画的に整備を進めており、6 校は令和 8 年度夏に稼働を開始する。引き続き整備を行い、安全で快適な学びの環境確保に努める。			

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(3) 新たな部活動指導体制推進事業				教職員課	
〔事業目的〕	教員の負担軽減を図るため、外部人材を活用した部活動指導体制への支援を実施する。				
〔事業内容〕	・ 教員に代わって単独で部活動の指導や引率ができる部活動指導員等を中学校、高等学校に配置 ・ 部活動休養日の拡大や共同管理体制の導入を推進し、部活動指導を改善				
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	92,835	13,613		79,222	
〔事業の目標 および効果〕		内 容	目標	実績	
	活動 指標	部活動指導員の配置校数	95 校	78 校	
	成果 指標	時間外在校等時間月 80 時間 以上の職員数	0 人	延べ 139 人	
〔事業評価〕	・ 退職教員等の部活動指導員を中学校 53 校、高等学校 25 校に配置し、教員の負担軽減および部活動指導の改善を図ることができた。 ・ 一方、部活動指導員の外部人材の確保が難しく、未配置の学校もあることから、今後も外部人材の確保に努め、教員の時間外在校等時間を削減していく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(4) 引き出す教育・楽しむ教育実践事業					教職員課
[事業目的]	I C T等の先端技術を活用した学びを楽しむ授業づくりや、教職員の業務改善に向けた研究に取り組む教員グループの活動を支援するとともに、自主的な研究活動を支援し、教員の指導力向上を図る。				
[事業内容]	① 先端技術活用研究への支援 ② 授業実践研究への支援 ③ 教職大学院派遣教員への支援				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	①	1,622		1,622	
	②	4,275		4,275	
	③	705		705	
	計	6,602		6,602	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	交付決定件数	35 件	40 件	
	成果 指標	学習支援システム への掲載数	25 本	18 本	
[事業評価]	・先端技術活用研究 9 グループ、授業実践研究 26 グループなど、40 グループの自主的な研究グループの活動を支援し、360° カメラを活用した授業参観に関する研究といった業務改善につながる実践が見られた。 ・成果物については、公開授業を単に録画したものを提出するケースなどがあり、学習支援システムには、共有に有効なものに限った掲載となった。今後は実績報告をまとめたスライドとプレゼン動画の提出を求めていく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(5) 高校生の探究的な学び支援事業				高校教育課	
[事業目的]	生徒が取り組んでいる探究活動の成果発表や活動資金獲得に向けた支援等を行うことで、学びの充実を図る。				
[事業内容]	・ 課題研究等の合同発表会（高校生探究フォーラム）を開催 ・ クラウドファンディング申請への支援 ・ 探究系全国大会出場への支援				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	7,586	968		6,618	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	高校生探究フォーラムの参加生徒数	350 人	450 人	
	成果 指標	探究系全国大会に出場する生徒チーム数	6 チーム	9 チーム	
[事業評価]	・ 高校生探究フォーラムに参加した生徒数 450 名。参加生徒にアンケートを実施し、ポスターセッションに対して非常に満足・満足と答えた生徒 97.1%、後輩にフォーラム参加をぜひ勧めたい・勧めたいと答えた生徒 93.7%であった。 ・ 生徒の探究活動の機会の充実を図ることができた。				

I 個性を伸ばす（人材力）						
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進						
(6) ①ふくい未来人材育成事業				高校教育課		
[事業目的]	自分の将来や生き方を考える機会を提供する「ライフデザイン教育」を推進し、生徒が将来の夢や目標を描き、それに向かって挑戦する姿勢を育むとともに、Uターンを含めた地元就職・地元進学意識向上を図る。					
[事業内容]	・福井の未来と地域政策を考える「地域デザイン講座」の開催 ・地域の核となる魅力的な学校づくりに向けた各学校独自の取組みを支援 ・地域で活動する高校生を表彰する「高校生チャレンジアワード」の実施					
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源	一般財源
	8,276		4,138			4,138
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績	
	活動 指標	地域デザイン講座の開講数		10 回	19 回	
	成果 指標	地域課題の解決に取り組む 生徒チーム数		15 チーム	107 チーム	
[事業評価]	県立高校 19 校で地域デザイン講座を開催したほか、高校生チャレンジアワードに 107 件（322 名）の応募があるなど、高校におけるライフデザイン教育の推進が図られている。					

I 個性を伸ばす（人材力）						
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進						
(7) 県立高校グローバル人材育成事業				高校教育課		
[事業目的]	さらなる高校生の英語力の向上を図り、海外大学への進学支援体制を充実させた「世界に羽ばたく」人材や「世界から福井に呼び込む人材」を育成する。					
[事業内容]	高校生英語サークル「ふくいグローバルサークル（FGC）」を創設、活動の実施 ・長期休業中に外国人留学生と3日間の「英語サマーキャンプ」を開催 ・国際交流協会や福井大学グローバル人材育成研究センターと連携した国際交流 ・海外研修「グローバルシチズンシップ研修」を実施 ・海外大学進学セミナーの実施					
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源	一般財源
	989		493			496
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績	
	活動 指標	登録人数		50 人	137 人	
	成果 指標	活動参加率		75%	40%	
[事業評価]	「ふくいグローバルサークル」のメンバーに、想定を上回る 137 人の県立高校生が登録し、活動参加率については、学校行事や部活動等で参加できる活動に限られた登録者が多く、目標を達成できなかったが、活動ごとの目標参加人数は、おおむね満たすことができた。					

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(8) 高校生次世代理系人材育成プロジェクト					高校教育課
[事業目的]	高校生および教職員を対象としてスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校の成果普及と支援を行い、理系人材の育成を図る。				
[事業内容]	・SSH校等に対し、サマープログラムやゼミ講習、生徒研究支援を実施 ・教科「情報」の教員免許認定講習による高校指導者の養成				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	3,852	354	2,018	1,480	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	研究公募への応募数	10 件	7 件	
	成果 指標	全国規模の科学研究コンテストの受賞数	3 件	1 件	
[事業評価]	研究支援公募の応募数について、対象者を限定的していたため、十分に集まらなかった。応募者数の拡大に向けて、次年度は事業の対象校を拡大する。				

I 個性を伸ばす（人材力）						
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進						
（９）未来の産業教育ブーストアップ事業					高校教育課	
〔事業目的〕	産業界と専門高校が一体・同期化し、絶えず革新し続ける最先端の職業人育成システムを構築し、専門高校の職業人材育成の抜本改革を図る。					
〔事業内容〕	・産業界他関係者が一体となったカリキュラム刷新を実施し実践 ・企業等での授業・実習や企業等の施設・設備の共同利用を実施					
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源		一般財源
	4,823		4,823			
〔事業の目標 および効果〕		内 容		目標	実績	
	活動 指標	企業技術者等による 授業数		38 回	98 回	
	成果 指標	商品化・実用化された 取組み数		8 件	8 件	
〔事業評価〕	企業や大学と連携した共同研究や商品開発の取り組みを実施することで、地域産業を牽引できる人材の育成が図られ、学校の魅力を地域に発信している。					

I 個性を伸ばす（人材力）						
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進						
（１０）福井フューチャーマイスター事業				高校教育課		
〔事業目的〕	県内職業系高校生の資格取得等に対する意欲向上を図り、地元企業に就職して活躍するためのスキルアップを促進するため、高校生の専門資格取得を支援する。					
〔事業内容〕	・生徒の資格取得や企業実習等の実績に基づき、認定を行う福井フューチャーマイスター制度を実施 ・専門資格の取得を支援（補助率 2/3 【一般資格は 1/2】）					
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源	一般財源
	7,789		81			7,708
〔事業の目標 および効果〕		内 容		目標	実績	
	活動 指標	高度技術者による講座数		32 回	33 回	
	成果 指標	福井フューチャーマイスター認定率		87.6%	84.9%	認定を目指す生徒の増加に対し、認定数が少なかったため
〔事業評価〕	地元企業の即戦力となる人材を育成するため、職業系高校生の資格取得を支援するとともに、福井フューチャーマイスターとして認定することにより、スキルアップが図られている。					

I 個性を伸ばす（人材力）						
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進						
（１１）特別支援学校キャリア教育推進事業					高校教育課	
【事業目的】	農業体験など地域との連携・協働により、特別支援学校児童生徒の就労・学習意欲や職業スキルを向上させるなどキャリア教育を推進する。					
【事業内容】	・ 農業法人等による技術指導や校外での農業体験実習を実施 ・ 生徒が作業学習等で培った力を認定する「特別支援学校技能検定」を実施 ・ 地域での販売会やボランティア活動など、社会貢献および交流活動を実施					
【決算額】 (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源	一般財源
	2,066					2,066
【事業の目標 および効果】		内 容		目標	実績	
	活動 指標	農業体験活動参加生徒		150 人	165 人	
	成果 指標	農業体験実習受入企業等数		12 社	9 社	
【事業評価】	農業体験実習や技能検定の実施により、多くの特別支援学校生徒が体験活動に参加し、技能向上や就労の促進が図られた。一方で、猛暑、豪雨等により、活動計画を中止せざるを得ない場合があった。					

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(12) インクルーシブ教育推進事業				高校教育課	
[事業目的]	障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が交流及び共同学習を発展的に進め、一緒に教育を受けるインクルーシブな学校運営モデルを構築する。				
[事業内容]	・ 特別支援学校と近隣地域の小・中学校との居住地校交流を実施 ・ 近隣地域の専門家と連携した学習活動を実施				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	1,209	1,209			
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	交流及び共同学習 を実施する学校数	3 校	3 校	
	成果 指標	交流および共同学 習の活動に対する 満足度	70%	96%	
[事業評価]	モデル校での交流や共同学習の実施を通して、関係各校間の連携や児童生徒の相互理解が進んだ。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(13) ふるさと教育推進事業					義務教育課
[事業目的]	児童生徒が自らの地域について学習したことを基に課題を見出し、その課題解決や地方創生に向けて他者へ発信する活動や自らの将来を創造する活動を通して、ふるさと福井に誇りや愛着を育むとともに、社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す。				
[事業内容]	・「ふるさと福井CMコンテスト」の開催 ふるさとCMを作成するための経費を助成(1校20万円を上限 県1/2、市町1/2) ・県内の企業従事者や県内出身研究者、地元の職業系高等学校を卒業し就職している若手社会人を講師としたキャリア教育出前授業の実施				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	5,462			1,366	4,096
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動 指標	講師派遣回数		30回	42回
	成果 指標	「将来の夢や目標を持っている」と答える児童・生徒の割合		85%	78.4%
[事業評価]	・ふるさとについての学びを発信する活動や出前授業の実施により、ふるさと福井に誇りや愛着を育むとともにキャリア発達を促す活動を推進した。 ・今後も学校や企業と連携を図りながら効果的な実施に向けて取り組んでいく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(14) 芸術教育推進事業					義務教育課
[事業目的]	学校教育を通じて、音楽や美術など芸術面における体験活動を充実し、児童生徒の感性や表現力の向上を図る。				
[事業内容]	・ 中学校、高校の合唱部・吹奏楽部等に対し、全国大会の出場にかかる経費を支援 ・ 中学校、高校の弦楽部に対し、アーティストを派遣 ・ 福井県ゆかりの作家を講師として招き、教員を対象に図画工作・美術の授業における越前和紙の活用を目的とした研修会を開催				
[決算額]	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	6,737				6,737
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動 指標	アーティストの派遣回数		102 回	77 回
	成果 指標	全国大会入賞校数		6 校	9 校
[事業評価]	・ プロのアーティストの指導により、生徒の感性や表現力の向上が図られている。 ・ 全国大会（東日本学校吹奏楽大会・中部日本吹奏楽コンクール本大会）に 9 校が出場し、3 校は、金賞を受賞した。				

I 個性を伸ばす（人材力） 1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 （１５）スクールカウンセラー配置事業 義務教育課					
〔事業目的〕	心理の専門的な知識を持つスクールカウンセラーを配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。				
〔事業内容〕	教育総合研究所および小中学校にスクールカウンセラー92名を配置 児童生徒等へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を実施 事案に対する学校内連携・支援チームの構築・支援				
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額	国庫		その他特定財源	一般財源
	137,323	45,774			91,549
〔事業の目標 および効果〕		内 容	目標	実績	
	活動 指標	相談件数	－	38,823 件	
	成果 指標	1,000 人あたりの不 登校児童生徒数	－	30.9 人	
〔事業評価〕	・スクールカウンセラーの配置時間の増や研修会の実施により教育相談体制の強化を図った。 ・今後も児童生徒や保護者を支援するために体制の強化を続けていく。				

I 個性を伸ばす（人材力） 1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 （１６）スクールソーシャルワーカー配置事業 義務教育課					
〔事業目的〕	社会福祉等の専門的な知識を持つスクールソーシャルワーカーを配置し、家庭環境、不登校、貧困、虐待等の課題を抱える児童生徒の支援、健全育成を図るため、関係機関と連携し、支援を行う。				
〔事業内容〕	・教育総合研究所および嶺南教育事務所、市町に対し、スクールソーシャルワーカー26名を配置 ・問題を抱える児童生徒に対する家庭訪問を行い、必要に応じて、児童相談所等の福祉関係機関や警察など関係機関と連携し、家庭環境を改善				
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額	国庫		その他特定財源	一般財源
	38,755	12,918			25,837
〔事業の目標 および効果〕		内 容	目標	実績	
	活動 指標	相談件数	－	473 件	
	成果 指標	1,000 人あたりの不 登校児童生徒数	－	30.9 人	
〔事業評価〕	・児童相談所や警察などの関係機関と連携し、児童生徒を取り巻く環境の問題解決を図った。 ・今後もスクールソーシャルワーカーの資質向上研修を行うとともに、関係機関と連携し、家庭環境の改善を図っていく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
（１７）地域文化部活動体制整備事業				義務教育課	
[事業目的]	中学校における部活動の地域展開を推進し、少子化が進行する中でも持続可能な中学生の文化芸術活動の機会確保を図ります。				
[事業内容]	・中学校区レベルで、指導者の派遣管理、学校や文化施設との連絡調整・安全管理等を行うコーディネーターを配置 ・地域文化クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実のため、持続可能な運営に向けた体制整備や質の確保に係る取組等を支援 ・休日の地域クラブ活動において、子どもたちに実技指導する者を配置 ・県内有識者等による検討会を開催し地域クラブ活動の在り方を検討				
[決算額]	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	11,922		11,046		876
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	地域展開に取り組む 市町数	16 地域	11 地域	
	成果 指標	休日の活動を地域に 展開した部活動数	106 部	87 部	
[事業評価]	市町や県、福井県吹奏楽連盟や合唱連盟、文化協議会などの関係団体と連携し、子どもの受け皿となる地域クラブや指導者の確保に努めながら、地域展開が推進されている。				

I 個性を伸ばす（人材力）						
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進						
（１８）英語力向上事業				義務教育課		
〔事業目的〕	グローバル社会で求められる英語力について、その学習状況を把握する一助として外部検定試験を活用し、本県生徒の英語力、英語学習に対する意欲向上を図る。					
〔事業内容〕	・ 中学３年生に対し、G T E C等の外部検定試験受験料を年１回全額補助					
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源	一般財源
	33,715					33,715
〔事業の目標 および効果〕		内 容		目標	実績	
	活動 指標	中学３年生の外部検定試験受験者の割合		90%	91.5%	
	成果 指標	中学卒業時に CEFR A1 以上の英語力を持つ生徒の割合		65%	84.6%	
〔事業評価〕	・ 県内全ての公立中学校３年生を対象に、「聞く」「読む」「話す」「書く」の４技能の英語力を測定できる外部検定試験G T E Cの受験料支援を実施した。 ・ 中学卒業時に CEFR A1 以上の英語力を持つ生徒の割合は、目標を大きく超えて全国トップレベルとなった。					

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(19) 子どもの読書活動推進事業				生涯学習・文化財課	
[事業目的]	子どもたちが本と出会い、読書を楽しむ環境づくりのために、家庭、地域、学校において子どもの読書活動を推進する。				
[事業内容]	・家庭・地域・学校等における読書活動の推進 推奨図書小冊子の作成、ジュニア司書養成講座、 子ども読書研修会、幼稚園教諭・保育士のための絵本講座 等				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源		一般財源
	3,269	331			2,938
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	講座等の開催回数	29 回	29 回	
	成果 指標	講座等の参加者	325 人	715 人	
[事業評価]	・ジュニア司書養成講座や子ども読書研修会、幼稚園教諭・保育士のための絵本講座等を開催し、家庭・地域・学校等での読書活動を推進した。 ・講座等の開催については、Web掲載による県内の学校図書館担当の教職員への周知やオンライン講座の開催により、参加者の利便性向上を図った。 ・推奨図書の貸出冊数については、令和3年度以降内容改訂が行われてこなかったこと等の影響により、令和7年度実績は目標比 83%にとどまった。令和8年度は内容改訂を予定しており、今後の事業効果の向上を図る。一方で、乳幼児向け図書については関連事業による利用促進の効果がみられることから、今後は全体の利用促進に向けて改善を進めたい。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(20) 文化財指定促進事業				生涯学習・文化財課	
[事業目的]	県民の財産である文化財を保存し、学校教育や観光への活用を図るため、国指定等に向けた調査を推進する。				
[事業内容]	・建造物、民俗、古文書等の調査				
[決算額]	決算額		国庫		その他特定財源
(単位：千円)	7,768		2,684		5,084
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動 指標	現地調査件数		27 件	31 件
	成果 指標	文化財指定件数		10 件	8 件
[事業評価]	調査に想定以上の時間を要したため、達成できなかった。				
	・絹本着色蓮如・善鎮対面像（数珠引きの御影）（越前市）、紙本着色小足掃部像 / 紙本着色大乘院妙春像（小浜市）、木造 阿弥陀如来立像（小浜市）、明通寺文書（小浜市）、小粕窯跡出土品（越前町）、籐締め柿経（敦賀市）、若狭地方の「船玉社」弁財船雛形（小浜市）、ガラガラ山のヤブニッケイ群落（福井市）の8件が新たに県指定文化財に指定された。 ・文化財指定件数については、現地調査に想定以上の時間を要したため、指定まで至らなかった文化財があり、達成できなかった。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(21) 地域運動部活動体制整備事業				保健体育課	
[事業目的]	5 年度以降の休日の運動部活動の段階的な地域移行と地域スポーツ環境の一体的な整備に向け、スポーツ団体等の整備充実、指導者確保、参加費用負担への支援等を総合的に推進し、地域において持続可能な中学生のスポーツ活動の機会を確保することを目的とする。				
[事業内容]	・ 休日の部活動の地域移行に向けた市町の取組みを支援 コーディネーター等の配置 スポーツ活動の運営に必要な経費（事務局員人件費、指導者謝金等）への支援 経済的に困窮する世帯への参加費用負担の支援				
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
(単位：千円)	93,055	32,282		60,773	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動指標	地域移行に取り組む市町数（市町）	17	17	
	成果指標	休日の活動を地域に移行した部活動数（部活動）	497	501	
[事業評価]	・ 7 年度末までに、約 9 割の運動部活動（501 部活動／552 部活動）が休日活動を地域に移行した。 ・ 8 年度からは部活動の地域展開推進事業に移行し、平日も含めた地域展開についての実証を進めていく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(22)・ふくいの食育推進事業				保健体育課	
【事業目的】	小中学校における食育事業を実施することにより、児童生徒の健康課題の解決を図るとともに、ふるさとの歴史や文化等を学ぶ「食育」を推進する。				
【事業内容】	・ 地場産食材による「食育」事業 地場産食材を活用した「地場産プラスワン給食」による食育を支援 ・ 食育による健康課題対策事業 栄養教諭の資質向上のための研修会や調査研究を実施				
【決算額】	決算額		国庫	その他特定財源	
(単位：千円)	26,842		386	26,456	
【事業の目標 および効果】	内 容		目標	実績	
	活動指標	地場産給食による食育を毎月実施した市町	17	17	
	成果指標	地場産物には何があるか知っている児童生徒割合（％）	80	72.2	※食に関するアンケート
【事業評価】	・ 「地場産プラスワン給食」の実施により、地場産物には何があるか知っている児童生徒割合を上昇させることができた。（R6：67.5％） ・ 地場産食材による「食育」事業については、一定の効果が認められることから事業を継続し、地場産物の理解について課題となる低学年の児童にも分かりやすい取組みとなるよう実施方法の見直しを行う。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
3 多様な個性や能力を育み、活かす共生社会の実現					
（１）県立夜間中学設置事業					義務教育課
[事業目的]	夜間中学の設置により、年齢や国籍に関係なく学び直しを希望する人が学ぶことができるよう教育の機会を確保する。				
[事業内容]	・開校にあたり必要となる備品等の整備、校歌の制作委託、校務支援システムの構築・保守 ・広報活動 学校説明会、体験授業、入学相談会の開催や、リーフレット等の作成 ・有識者を招聘し、夜間中学設置に係る方針等を検討する夜間中学設置検討会を開催 ・道守高等学校改修 教室等整備にかかる改修工事、倉庫等の設置に向けた設計				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源
	44,627		8,002		13,000
					23,625
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動 指標	夜間中学設置検討会の開催回数		4 回	2 回
	成果 指標	—		—	—
	義務教育を受ける 機会の確保という 事業の性質上、数値 による成果指標の 設定が困難。				
[事業評価]	・県内 5 か所での学校説明会に延べ 56 人、全 12 回の体験授業・入学説明会では延べ 39 人の参加があった。 ・夜間中学設置検討会は 2 回開催し、校章を決定した。 ・令和 8 年 4 月に生徒 15 名を迎え入れ、開校した。				

IV 住みやすさを高める（地域力）

13 人生100年時代の充実生活応援

保健体育課

(1) 子どもの目と歯の健康プロジェクト事業

[事業目的]	生活習慣を見直すことを通して、視力低下の進行を遅くするとともに、トレーニングによって視覚機能の改善を推進する。 正しい歯みがきの仕方を身につけることなどにより、むし歯予防を促進するとともに、二次検診の実施によりむし歯治療率を向上させる。				
[事業内容]	・ 視力低下の抑制や視覚機能を改善する取り組みを実施（ゼロ予算） 小学1、2年生に「生活習慣チェックカード」をデータ配信 各教室に「目の健康を守る3か条」を掲示し、「目のリフレッシュタイム」、「ビジョントレーニング」を実施 ・ むし歯予防の促進やむし歯治療率を向上させる取り組みを実施 17市町で二次検診を実施 モデル校10校（6市町）でフッ化物洗口を実施 小学1、2年生にリーフレットを配布（ゼロ予算）				
[決算額]	決算額		国庫		その他特定財源
(単位：千円)	2,850				一般財源
					2,850
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動 指標	目の健康に関する指導実施率(%)		100.0	100.0
		歯磨き指導実施率（%）		100.0	100.0
	成果 指標	視力1.0未満の小学生の割合(%)		36.1	35.2
		むし歯のない（処置者を含む）小学生の割合（%）		83.5	79.3
[事業評価]	・ 目に関する取組の実施により、視力 1.0 未満の小学生割合は全国平均値を上回ることができた。一方で歯に関する取組みの実施により、むし歯のない小学生割合は概ね改善傾向にあるが、全国平均値を依然として下回っており、教員に過度な負担がかからないよう配慮しつつ、フッ化物洗口をはじめとした抜本的な取組みを進めていくことが必要である。				

その他 (1) こども歴史文化館展示事業 生涯学習・文化財課					
[事業目的]	福井ゆかりの人物（先人・達人）の生き方や業績等を展示や講座、出前教室等により紹介し、郷土の歴史文化の理解を深め、福井に誇りをもった子どもを育てる。				
[事業内容]	・普及事業…各種イベント、出前教室等の実施 ・発掘事業（調査研究）…未開拓の人物情報の調査研究 ・資料収集事業…実物資料の収集等 ・特集事業…企画展の開催				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源
	9,773				11
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	企画展開催回数	2 回	2 回	
	成果 指標	利用者数	63,000 人	51,149 人	達成には至らなかったものの6年度の利用者数を大幅に上回った。(6年度:45,376人)
[事業評価]	・特別展「妖怪、ずらり。」を2期にわたって開催し、妖怪にまつわる県内外の資料(絵巻物や浮世絵、絵馬など)を展示した。あわせて、妖怪文化に関連する先人や達人、古文書に残る県内各地の伝説についても紹介した。本特別展は家族連れを中心に賑わいを見せ、とくに前半期(夏)の来館者数は歴代2位を記録した。・他館との共催展を行い、利用者数の増加に努めた。 ・常設展「先人のひろば」の「幕末」コーナーに「面谷銅山」(幕末大野藩が経営)のスポット展示を行い、「近現代」コーナーに「宇野重吉」「吉田喜重」の先人2名を追加した。				

その他 (2) ふるさと文学館事業 生涯学習・文化財課					
[事業目的]	ふるさと文学館において、福井ゆかりの作家や作品の魅力を伝える展示等を実施するほか、若者の創作活動を応援し、文学に親しむ機会を増やす。				
[事業内容]	・企画展の開催 ・若い世代の創作活動を支援する文学ゼミや文学講座等の開催				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源
	23,262				21
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	企画展開催回数	3 回	3 回	
	成果 指標	入館者数	72,000 人	65,305 人	達成に至らなかったものの、過去5年間の平均(63,597人)は上回った。
[事業評価]	・開館10周年記念展や絵本作家・長新太展、藤田宜永の没後5年に合わせた展覧会などの企画展の他、大阪・関西万博や昭和100年、「山の日」全国大会、『千歳くんはラムネ瓶のなか』アニメ化記念などタイムリーな特集展示を実施し、幅広い世代の来館でにぎわった。 ・作家講演会やオーサートーク、プロの作家養成講座計36回の他、風花随筆文学賞(応募総数4,749編)などを実施し、若い世代を中心に作家や文学に触れ、創作に取り組む機会を作った。				

VI 有識者からの意見

○ 福井大学理事（教育・ダイバーシティ担当） / 副学長 澁谷 政子

まず、このたび「令和7年度福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下、「点検・評価報告書」）を、実績およびデータを的確に集約し取りまとめられたことに敬意を表します。令和7年度事業に先立ち、福井県では令和6年10月に「教育に関する大綱」の改定、そして令和7年3月に「第4期福井県教育振興基本計画（令和7～11年度）」の策定を行い、福井県のこれまでの教育の強みを活かしながら、子どもたちの学びや成長のみならず、教育が地域創生と次世代のしあわせの基盤であることを力強く提起しています。点検・評価報告書では、これらの新しい基本構想のもと、第4期の初年度、教育委員会が創意ある先進的な取組を意欲的に展開されたことが十分に示されています。

今、教育をめぐり国全体もかつてない変革期を迎えています。中央教育審議会の「我が国の『知の総和』向上の未来像（答申）」（令和7年2月21日）を皮切りに、現在、初等中等教育から高等教育まで、日本の教育の根幹に関わる改革の議論が多方面で進んでいます。これらに通底しているのは、急速な少子化への危機意識です。次期学習指導要領に向けた中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」（令和7年9月25日）では、「自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手の育成」を基本的な理念として、『好き』（興味・関心）を育み、『得意』を伸ばす」「当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる」ことが二つの柱として提起されています。一方、福井県が目指し実現してきた教育の姿に目を向ければ、こうした国の最新の議論を先取りする形で改革がすでに進められており、そのことは、第4期教育振興基本計画の基本理念「一人ひとりの個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり～子どもが主役の『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育の推進～」に明確に表れていると言えるでしょう。教育先進県としてのアドバンテージを活かしながら、さらに、子どもたちがワクワクする学び、そんな学びを創意工夫して協働してデザインする教師、学びの場の創造性が循環するコミュニティ、これらの実現を目指す。こうした視点から、点検・評価報告書に記載された取組実績についていくつか私見を述べたいと思います。

方針1「自らと福井の将来につなげる学びの推進」においては、第3期までは子どもたちの育成すべき資質能力ごとに整理されていたものが、「福井」というコミュニティの視点を羅針盤として明確に加えたことで、360度俯瞰できるようになり、点と点が結びつき、線そして面として見えるようになりました。「高校生探究フォーラム」「高校生チャレンジアワード」「ふくいGirl's 未来のテックリーダー」「地域デザイン講座」「全国プレゼン甲子園」「ふくいグローバルサークル」等、新規の取組も含め授業や学校の枠を超えて、子どもたちが多くの人と関わりながらチャレンジできる環境を精力的に提供していることは高く評価できます。また、県立学校のタブレット端末の更新や学習アプリの導入により、こうした活動と、それを支える基盤整備とをセットで進めていることも重要です。都市圏と比べて生の情報に触れたり体験したりする機会がどうしても少なくなりがちな福井だからこそ、子どもたちが福井にしながら多様な体験できる環境をさらに

充実していただきたいと思います。

一方、達成目標を見てみると、全体として高水準の成果を上げていますが、例えば「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒の割合」は令和7年度67.1%と、他の項目と比して若干低く出ています。自らの成長を地域・国・世界の出来事と結びつけることはハードルが高いかもしれませんが、他者への眼差しと客観的な状況把握の力は、今後の社会において極めて重要です。探究学習や地域課題に関する取組等を通して、仲間との対話から一步踏み出し、現実と向き合い行動し社会にコミットできるような機会創出にもより力を入れていただければと思います。そのためには、大学や企業等との連携もカギになるはずで、現在改編が進んでいる「未来協働プラットフォームふくい」を活用した今後の展開にも期待します。

それぞれの施策は、まずは、「こどもが主役」というコンセプトのもと、参加した児童生徒の成長につながることを目指すものですが、参加した子どもたちのワクワクや成長の様子を通して、(今回は)参加していない子どもたち、保護者、広く県民、そして他県にも、福井の教育が面白い、福井で暮らすことが魅力的、と感じてもらうという重要な役割も担っていると思います。福井の探究学習が全国区になれば、県民の誇りにつながります。こうした視点から、多様なチャンネルを活用した広報や成果発表などもさらに工夫されるとよいのではないのでしょうか。

方針2「誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進」は、将来の社会におけるwell-beingのために確実に必要な施策です。経済的発展による成果は即効性がありわかりやすいのに対して、インクルーシブやダイバーシティ環境の醸成はその効果がすぐには見えにくく、着実に、粘り強く、具体的施策をもって取組むことが必要なものでもあります。方針1の取組をいわばアクティブな性格が強いと捉えれば、方針2はパッシブな傾向が強いと言えますが、他者の声に耳を傾け応答するコミュニティを実現していくため大変重要なものであると考えます。サポートルーム支援員、コミュニケーションサポーターの配置、県内初の夜間中学「若杉中学校」、医療的ケアが必要な児童生徒の福祉車両での送迎、インクルーシブ教育モデル校の設定、児童相談所や警察等との連携等、支援体制の充実に関して前年度より着実に進展が見られます。こうした学校教育を支援する職種、いわばco-educational人材の制度化は国全体ではまだ途上ですが、県単位だからこそスピーディかつきめ細やかな対応を進めることも可能ではないかと思います。今後も現場のニーズ把握に基づく支援体制の強化が望まれます。

方針3「人生を楽しく豊かにする学びの推進」に関しては、生涯学習の振興と文化芸術・スポーツ文化の充実が挙げられています。部活動の地域展開は本格的にスタートしていますが、県内中学校の部活動の89.7%が休日の活動を地域クラブに移行されているという数字はやや驚きをもって拝見しました。関係の方々の大変なご尽力に敬意を表します。日本の学校の部活動は、多様な文化・スポーツ活動に触れることを、経済的負担が少ない安定した環境で保証してきた制度であったことは確かです。一方で諸外国ではこうした活動はボランティア等も含めて平日も含め地域で展開されていることも少なくありません。例えば、児童生徒の活動と大人の生涯学習とを結びつけるような形もあり得るのではないのでしょうか。制度の転換期にはさまざまな戸惑いや課題はどうしても避

けられません。部活動の地域展開については国の施策の充実がまず望まれますが、県においても、学校と緩やかにつながりながら地域を部活動の場として定着させていくため、丁寧な状況把握を継続しながら、質の高い指導者育成や移動手段の確保など、予算的支援を含めて引き続き取り組んでいただきたいと思います。

方針4「基本となる環境づくり」では、昨今の大きな社会問題となっている教員不足への対応が中心となっています。子どもが主役であると同時に、先生の well-being の実現も重要であることは言うまでもなく、魅力発信の複数の取組はそれぞれよく工夫されています。教職を目指す若者を増やすことも大変重要です。こうしたアクションは新たなチャレンジという点にも魅力がありますので、状況に応じて適宜リデザインすることも効果的かもしれません。

また関連して、「IV 令和7年度福井県教育委員会の活動状況」に記載されている、令和8年度公立学校教育採用選考試験における「嶺南採用枠」の創設に触れておきたいと思います。地域に定着する若手人材の確保だけでなく、教育で地域をつくるという意義も見落としてはなりません。嶺南の教員を目指し、学部時代から地域の特性や教育資源を学ぶ福井大学嶺南地域教育プログラムとの連動を軸として、今後の制度の充実を期待します。

また、産育代替専門職の配置と、福井弁護士会との連携協定は、学校現場と教員の窮状にダイレクトに対応する制度として、また方針2で述べた co-educational 人材の制度化というコンテクストにおいても、大変高く評価できます。より実効性のある制度構築に向けて点検・改善に努めていただければ幸いです。また、これまで「働き方改革」というと時間外勤務時間が指標となってきましたが、次の段階として、学校においてはどのように「多様な働き方」が可能かといった点について検討を開始してはいかがでしょうか。

点検・評価報告書全体を拝読し、福井県教育委員会をはじめとする福井の教育に携わる方々の情熱と行動力の連鎖が、フレッシュな改革を生み出していると強く感じたところです。探究的な学び、ふるさと教育、チーム学校、対話と省察等の取組をさらに進展させ、教育先進県として全国を先導する役割を果たすとともに、オール福井で、福井の子どもたちそして福井を元気に輝かせるため、さらに新たな挑戦を続けていかれることを期待します。

○ 福井県PTA連合会 会長 児玉 勝

令和 7 年度福井県教育委員会「事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」を拝読し、本県の教育行政が着実に前進していることを、PTA の立場から高く評価申し上げます。教育委員会が地教行法に基づき、毎年点検・評価を行い、その結果を県議会へ提出し公表していることは、県民に対する説明責任を果たすうえで極めて重要であり、教育行政の透明性を支える基盤であると考えます。

まず、教育 DX の推進についてです。タブレット端末の更新、AI 等を活用した学習アプリの導入、電子黒板の整備など、学習環境のデジタル化が大きく進展しています。これらは、子どもたちの個別最適な学びや協働的な学びを支える重要な基盤であり、今後の教育の質を左右する取り組みです。一方で、家庭での ICT 活用や情報モラル教育の充実、学校だけで完結するものではありません。PTA としても、家庭学習との連携や保護者への啓発を進め、学校と協働して子どもたちの安全な ICT 活用を支えていきたいと考えます。

次に、探究学習と地域連携の深化についてです。高校生探究フォーラムやチャレンジアワードなど、主体的・対話的で深い学びを促す取り組みが広がり、子どもたちが地域や社会とつながりながら学ぶ機会が増えています。また、ふるさと教育の充実により、地域への愛着や社会参画の意識が育まれていることは、本県の教育の強みと言えます。PTA としては、地域の大人が学びに関わる仕組みづくりを後押しし、学校・家庭・地域が一体となった教育の実現に寄与したいと考えます。

誰一人取り残さない学びの保障についても重要な進展が見られます。不登校支援として校内サポートルームが 73 校へ拡充され、外国籍児童生徒への日本語支援員配置や翻訳機導入など、多様な背景を持つ子どもへの支援が強化されています。医療的ケア児の送迎支援も開始され、教育のアクセシビリティが向上しています。PTA としては、こうした支援を家庭側からも支え、子どもたちが安心して学べる環境づくりに協力していくことが求められていると感じます。

特別支援教育も大きな前進です。モデル校で交流や共同学習を実施するインクルーシブ教育が推進され、子どもたちの可能性を広げる取り組みが進んでいます。また、新たな学びの場となる県内初の夜間中学校「若杉中学校」の開設は、本県教育の歴史的な一歩であり、学び直しの機会を保障する重要な施策です。PTA としても、多様な学びの場を地域で支える意義を共有し、理解促進に努めたいと考えます。

教員の働き方改革については、全国的にも先進的な成果が示されています。男性育休取得率が大幅に上昇し、スクールロイヤーによる法的支援の強化により学校現場の負担軽減が進んでいます。時間外勤務の縮減も着実に進んでおり、教員が子どもと向き合う時間をより確保しやすい環境が整いつつあります。PTA としては、教員の働きやすさが子どもの学びの質に直結することを強調し、保護者側の理解と協力をさらに広げていく必

要があると考えます。

ポジティブ教育の推進についても、意義ある取組が進められていることを評価いたします。子どもたちが自分の強みを認識し、他者との関わりの中で自己肯定感を高める教育は、学力だけでなく心の成長を支える重要な要素です。学校現場では、子どもたちの自己肯定感を育む取組や、より良い人間関係づくりを促す授業実践が進んでおり、ポジティブ教育の視点を取り入れた取組が広がりつつあります。PTA としても、家庭での声かけや地域での温かい関わりを通じて、子どもたちの「できる」「やってみよう」という気持ちを支える環境づくりに協力してまいりたいと考えます。

文化・スポーツ・生涯学習の分野でも、図書館の電子書籍導入やライフアカデミーの高い満足度、中学校部活動の地域移行の進展など、地域の教育力を高める取り組みが進んでいます。部活動の地域移行については、保護者負担の適正化や地域クラブとの連携強化が今後の課題であり、PTA としても積極的に議論に参加していく所存です。

教育環境整備についても、体育館空調整備や学校施設の大規模改修など、子どもたちが安全で快適に学べる環境づくりが進んでいることを評価します。今後も、学校施設の老朽化対策や防災機能の強化など、継続的な整備が求められます。

以上のとおり、令和 7 年度の教育行政は多方面で前進が見られ、子どもたちの学びを支える基盤が着実に整備されています。PTA としては、学校・家庭・地域が協働し、子どもたちの未来をともに育む姿勢を一層強めてまいります。

なお、方針 1～4 に掲げられている達成目標について、方針 2～4 が概ね令和 6 年度より上昇しているのに対し、方針 1 は下降している項目が多く、特に小学校を対象とした数値にその傾向が見られるため、要因分析や対策の検討を継続していただくことを要望し、教育委員会におかれましては、引き続き現場の声に丁寧に耳を傾けながら、より良い教育環境の実現に向けて取り組みを進めていただくことを期待申し上げます。